

くじらのつばやま

Oh! すてき 素敵☆



令和6年10月1日 中央小学校 学校だより No.9

** うんどうかい せいこう ちむ 運動会の成功に向けて 子どもたちは頑張っています **



スローガン「協力^{きょうりょく}を忘れず 全力^{ぜんりょく}で駆け抜けよう！」



10/12(土) 開催予定の運動会に向け、熱中症対策をとり、計画的に運動会準備を進めています。夏休み中はGoogle クラウドルーム掲載動画をもとに各々で練習を重ね、9月に入ってからも高温が続いていたことから空調のある室内で練習しました。時々は運動場や体育館でも練習しましたが、短時間を心がけて十分な給水タイムを取りました。9月第4週に入ると暑さが弱まってきたので、屋外での練習が始まりました。縦割り班ですすめるスマイル活動の発展種目となる全学年での「アイスマイル」については、6年生が中心となって現在練習中です。各班のチームワークが微笑ましいです。ぜひ、楽しみにしてください。

ぜんがくねんえんぎ 全学年演技「アイスマイル」の練習



ていがくねんひょうげん 低学年表現の練習



ぜんこくがくりょく がくしゅうじょうきょうちょうさ けっか 全国学力・学習状況調査の結果から



4月18日に全国の6年生を対象に行う「全国学力・学習状況調査」を実施しました。子どもたちの学力や学習状況を把握・分析し、その改善を図るとともに、学校における子どもたちへの教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。結果から見てきた本校児童の学力の傾向について概要をお知らせします。

きょうか かん ちょうさ ほんこう へいきんせいとりのつ 教科に関する調査…本校の平均正答率について

きょうか こくご さんすう せいとりのつ ぜんこくへいきん したまわ けっか 2教科(国語・算数)とも、正答率は全国平均を下回る結果となりました。



【国語】

「漢字や文字表記の基本的な意識・技能の定着」については、県の平均を上回っています。漢字・文章表記、言葉の関係性などの基本的な力については、4・5年生が取り組んだみえスタディ・チェックにおいても強みとなる結果となり、毎日のチャレンジタイムにおける反復的な学習や家庭学習を通して力が定着していることがわかります。一方で、人物像や物語の全体像を具体的に想像することをもとにして解答するなど「文章を深く読み取って自分の考えを示す力」については苦手であることがわかりました。また、「目的や意図に応じて分類したり関係づけたりして判断する力」についても課題がみられました。

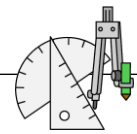
<国語について 今後の対応>

教材文や問題文などに対して、「お話の全体をとらえた上で、決められたテーマに関する自分の考えを述べ合ったり書いたりする活動」および「出題の意図(題意)を確認する活動」をていねいに行います。また、低学年のうちから「順序立てて説明する」ことを取り入れた授業を行い、各教科における学習用語を正しく理解する指導を十分に行います。そして、文章の構成をとらえ、図表・データ等との関連をふまえて考え合う機会をもち、読む力を高めるとともに、原稿用紙を使用し、決まった文字数で書いたりキーワードを入れて書いたりする経験を重ねていきます。



【算数】

「図形」の領域において、見取り図や展開図の正答率が高く、県の平均を上回っています。また、選択式の問題については、無回答率が低く、正答率も高いです。一方で、小数の割り算が苦手な児童がおり、数量の関係性を判断し、解き方を文章で回答することが全体的に苦手であることが分かりました。また、必要なデータを取り出し、落ちや重なりのないように分類整理する問題に不慣れであることがみえてきました。



<今後の対応>

「数と計算」の領域については、4・5年生が取り組んだみえスタディ・チェックにおいて県平均より上回っています。高学年で難易度も上がる小数や分数の乗法・除法が子どもたちにとっていかに難しいものかがわかります。既習内容の振り返りを行い、単元の系統性を踏まえてつながりのある授業を心がけ、数式の意味を言葉で説明したり数直線や具体物で確かめ合ったりするようにします。また、具体物を操作する体験活動を取り入れることで量感を育てていきます。さらに、じっくりと考えなければ答えが出ないような複合的な問題を取り組み、答えを出して終わりではなく、なぜその式になるのかなど、答えを導き出すまでの過程に重点をおくとともに、それらを筋道立てて説明できるよう指導していきます。



【児童質問紙の結果から】

- 『自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか』に対し、肯定回答が全国・県よりも高くなっています。コミュニケーション能力の基礎となる観点であり、教室での学びに意欲的であることがわかります。
- 『地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか』に対し、肯定回答が全国・県よりも多くなっています。伝統文化や祭りを保有する学校として、教育ビジョンに掲げている「子どもが真ん中となる家庭・地域・学校の協働」の実現に向けて、保護者・地域の方々とともに連携していきます。
- 『英語の勉強は好き』『英語の勉強は大切である』に対し、全て肯定回答が全国・県よりも上回っています。特に全児童が英語は大切だと感じています。理科についても同様に肯定回答が高くなっています。このことを受け、外国語専科・理科専科等の教科担任制の成果を感じます。
- 朝食・起床・就寝等の質問に対し、不規則である児童が全国・県よりも多く、健康に過ごすために学んでいることが、生活に活かされていない実態があります。学校医とも連携し、健康教育に力を入れていきます。
- 『人の役に立つ人間になりたいと思うか』に対し、ほぼ全員が肯定回答であるにもかかわらず、自分のことになると肯定感が低く、『自分にはよいところがある』と思わない児童が2割近くいます。まずは、子どもらしさを尊重し、定期的な教育相談を入れて、「他者へ自己の気持ちを表出し、心を開放する」ことを働きかけていきます。

～「みんなが認められ、活躍できる学校、保護者や地域の方々とともに歩む学校」を目指して。～
学校HP もご覧ください

